

ネットワーク ライセンス 管理者ガイド

次の説明は、IBM® SPSS® Amos™ 19 にネットワーク ライセンスを使用しているサイトの管理者向けです。このライセンスでは、任意の数のコンピュータに IBM SPSS Amos をインストールできます。ただし、アプリケーションを同時に実行できるユーザーの数は、ライセンスを購入したユーザーの数に制限されます。

始める前に

同梱されている（別紙に記載されている）認証コードが必要です。この認証コードを使用して、Network License Manager 用のライセンスを取得できます。**Network License Manager** では、ネットワーク ライセンスが管理され、エンドユーザーが IBM® SPSS® Amos™ を実行できるようにします。認証コードが見つからない場合は、営業担当者に連絡してください。

ネットワーク ライセンスが正しく設定されていることを確認するには、次の手順を実行します。

- ▶ **Network license manager をインストールします。**Network License Manager は、エンドユーザーにネットワーク ライセンスを与えるユーティリティです。ネットワーク上のコンピュータにライセンス マネージャをインストールできます。これは、通常デスクトップ コンピュータが接続できるサーバーとなります。詳細は、[p. 2 Network License Manager のインストール](#) を参照してください。
- ▶ **製品にライセンスを許可します。**この操作により、ライセンスの許可に必要な情報が License Manager に提供されます。詳細は、[p. 5 製品のライセンス](#) を参照してください。
- ▶ **Network license manager をテストします。**ライセンス許可されていることを確認するためにライセンス マネージャをテストする必要があります。詳細は、[p. 8 ライセンス マネージャのテスト](#) を参照してください。
- ▶ **ローカルのデスクトップ コンピュータに IBM SPSS Amos をインストールします。**ユーザーまたはエンドユーザーがデスクトップ コンピュータで完全インストールを実行します。インストール中に、エンドユーザーはライセンス マネージャを実行しているコンピュータを指定します。エンドユーザーが IBM SPSS Amos を起動しようとする、ライセンス マネージャに接続されライセンスが取得されます。ライセンスが利用可能になると、IBM SPSS Amos が起動します。詳細は、[p. 9 ローカル デスクトップ コンピュータへの製品のインストール](#) を参照してください。

インストールに必要な管理手順はありませんが、何か問題が発生した場合は、「[ネットワーク ライセンスの管理](#)」（p. 13）を参照してください。

ゴースト化

ソフトウェアをゴースト化（イメージの複製）するには、ライセンス マネージャをインストールし、ゴースト化（複製）イメージの作成に使用するローカルデスクトップに製品をインストールします。必要に応じて他のコンピュータもゴースト化します。

Citrix とターミナル サービス

Citrix Server またはターミナル サービス サーバー上で IBM® SPSS® Amos™ アプリケーションをインストールして公開する作業は、他の Windows アプリケーションの場合と同じ方法で実行できます。

Network License Manager のインストール

エンドユーザーがデスクトップ コンピュータに IBM® SPSS® Amos™ をインストールする前に、Network License Manager をインストールする必要があります。このユーティリティは、継続して実行されるサービスまたはデーモンで、通常ネットワーク上の 1 台のコンピュータにインストールします。（リダンダント ライセンス マネージャを設定する場合、複数のコンピュータにインストールすることもできます。詳細は、「[リダンダント ライセンス サーバーの設定](#)」（p. 16）を参照してください。）デスクトップ コンピュータにはネットワーク ライセンス マネージャをインストールしません。

エンドユーザーが、ネットワーク ライセンスが許可された SPSS Inc. アプリケーションを起動するたびに、ライセンス マネージャからライセンスが要求されます。購入したライセンスによってソフトウェアを同時に使用できるエンドユーザー数が決まっており、このユーティリティによってその数までのライセンスが各コンピュータに発行されます。ライセンス数が上限に達すると、それ以降のライセンス要求は拒否されます。エンドユーザーが頻繁にライセンスを拒否されていることがわかったら、営業担当者に連絡し、ソフトウェアを同時に使用できるエンドユーザー数をもっと多いライセンスを購入できます。

注：また、License Manager では、アクティブなエンドユーザー セッションの数や各セッションに関する情報がログ ファイルに記録されます。このログ ファイルは、接続上の問題でトラブルシューティングを行う際に役立ちます。詳細は、[p. 15 ログ ファイルの場所の設定](#) を参照してください。

複数のオペレーティング システム:

この network license manager が稼動しているプラットフォームは、クライアントが稼動しているプラットフォームと一致する必要はありません。

DVD には、IBM SPSS Amos が稼動するのと同じプラットフォームのライセンス マネージャが含まれています。可能な場合は、その他のプラットフォームのライセンス マネージャは、<http://support.spss.com/ProductsExt/Shared%20Utilities/Sentinel/download.html> で入手できます。

ライセンス マネージャの管理

Windows のみに使用できるライセンス マネージャ ツールを使用して、ライセンス マネージャを管理します。そのため、ライセンス マネージャ ツールをインストールするために少なくとも 1 台の Windows マシンが必要です。

システム要件

Network License Manager をインストールするコンピュータは、次の要件を満たしている必要があります。

- 550Mhz 以上のプロセッサ
- 128MB 以上の RAM

重要: ライセンス サーバー上でファイアウォールを実行している場合は、UDP 用にポート 5093 を開く必要があります。そうしないと、クライアント コンピュータは License Manager からライセンスを取得できません。さらに、リダンダント (冗長) ライセンス サーバーを使用する場合、ライセンス サーバーが互いに通信できるように、UDP 用にポート 5099 を開ける必要があります。

License Manager のアップグレード

以前のバージョンの license Manager がインストールされている場合は、次の手順を実行する必要があります。

- ▶ 古い license Manager をインストールしたディレクトリに移動します。
- ▶ lservrc ファイルをコピーします。Windows では、winnt サブディレクトリの中を探してください。
- ▶ 安全な場所に lservrc ファイルを保存します。
- ▶ ユーザーがコンピュータ ライセンスをチェックアウトした場合、これらのユーザーがライセンスを再度チェックインするようにします。チェックアウトしたライセンスのリストの取得についての詳細は、「[コンピュータ ライセンスの設定](#)」(p. 18) を参照してください。
- ▶ ライセンス マネージャを終了します。 [詳細は、 p.21 license manager の開始および停止 を参照してください。](#)
- ▶ 新しいライセンス マネージャをインストールします。以前のバージョンがインストールされているディレクトリにインストールしないでください。Windows へのインストールの詳細は、「[Windows コンピュータへのライセンス マネージャのインストール](#)」(p. 4) を参照してください。他のオペレーション システムへのインストールの詳細は、「[他のオペレーティング システムへの License Manager のインストール](#)」(p. 4) を参照してください。
- ▶ 保存された lservrc ファイルを、新しいライセンス マネージャをインストールした場所またはインストール ディレクトリの winnt サブディレクトリ (Windows の場合) にコピーします。Windows のデフォルトの場所を受け入れた場合は、C:\Program

Files¥Common Files¥SafeNet Sentinel¥Sentinel RMS License Manager¥ フォルダを確認してください。

- ▶ 新しいライセンス マネージャを起動後、古いライセンス マネージャをアンインストールします。詳細は、[p.22 License manager のアンインストール](#) を参照してください。

Windows コンピュータへのライセンス マネージャのインストール

注 :Windows Vista または 7 では、管理者としてインストーラを起動する必要があります。インストーラ ファイルを起動するよう指示された場合、ファイルを右クリックして [管理者として実行] を選択します。

- ▶ ライセンス マネージャを実行するネットワーク コンピュータの DVD ドライブに DVD を挿入します。DVD から ¥Windows¥Administration¥Licensing¥NetworkLicenseManager¥setup.exe を起動します。
または
- ▶ License Manager をダウンロードする場合、WinZip などのアーカイブユーティリティを使用して、ダウンロード ファイルのコンテンツを解凍します。setup.exe ファイルを起動します。
- ▶ 画面に表示される指示に従います。

他のオペレーティング システムへの License Manager のインストール

- ▶ ライセンス マネージャを実行するネットワーク コンピュータの DVD ドライブに DVD を挿入します。
- ▶ DVD の <operating system>/Administration/Licensing/NetworkLicenseManager を参照します。
または
- ▶ ライセンス マネージャをダウンロードした場所を参照します。
- ▶ コンピュータのプラットフォームに対応するファイルを untar で展開します。
- ▶ Windows コンピュータにライセンス マネージャ ツールをインストールします。詳細は、[p. 4 ライセンス マネージャ ツールのインストール](#) を参照してください。
- ▶ License Manager の開始方法に関する詳細は、「[license manager の開始および停止](#)」([p.21](#)) を参照してください。

ライセンス マネージャ ツールのインストール

Windows 専用のライセンス マネージャ ツールを使用して、ライセンス マネージャを管理します。オペレーティング システムに応じて、これらのツール手動でインストールする必要があります。

- **Windows:** ツールはライセンス マネージャとともに自動的に Windows コンピュータにインストールされます。そのため、Windows ライセンス マネージャを使用する場合、インストールをスキップすることができます。また、ライセンス マネージャをリモートで管理する場合、別の Windows コンピュータにインストールするオプションもあります。
 - **その他のオペレーティング システム:** Windows 以外のコンピュータにライセンス マネージャをインストールした場合、Windows コンピュータにライセンス マネージャ ツールをインストールする必要があります。
- ▶ ライセンス マネージャをインストールするコンピュータの DVD ドライブに DVD を挿入します。DVD で `¥Windows¥Administration¥Licensing¥NetworkLicenseManager¥Tools¥setup.exe` を起動します。
または
 - ▶ License Manager をダウンロードする場合、WinZip などのアーカイブ ユーティリティを使用して、ダウンロード ファイルのコンテンツを解凍します。setup.exe ファイルを起動します。
 - ▶ 画面に表示される指示に従います。

製品のライセンス

ライセンス マネージャをインストールしたら、コマンド プロンプトからライセンスをインストールする必要があります。

今すぐライセンスを取得しない場合、一時的なトライアル ライセンスとなり、トライアル期間にわたり 制限されたユーザー数で IBM SPSS Amos を使用できます。トライアル期間（製品を最初に使用したときから開始）が終了すると、-IBM® SPSS® Amos™ は動作しなくなります。そのため、できるだけ早くライセンスを取得することをお勧めします。ライセンスを取得するか、一時的なトライアル ライセンスを有効にしないと、IBM SPSS Amos を使用することはできません。

注：ライセンスは、ネットワーク コンピュータのロック コード付きハードウェアに関連付けられます。ネットワーク コンピュータまたはそのハードウェア交換すると、新しいロック コードが与えられるため、販売担当者に連絡して新しい認証コードを取得する必要があります。

警告：ライセンスは時刻の変更を感知します。システムの日付や時刻を変更した後に製品を実行できなくなった場合、SPSS Inc. テクニカル サポートに連絡してください。

コマンド プロンプトからのライセンスのインストール

コマンド プロンプトからインストールするには、2 つの方法があります。licenseactivator を使用するとインターネットから自動的にライセンスを取得でき、echoid を使用すると手動で取得できます。

licenseactivator を使用したライセンスの自動インストール

ライセンスをインストールするコンピュータはインターネットに接続している必要があります。接続していない場合は、ライセンスを手動でインストールしてください。[詳細は、p. 7 ライセンスの手動インストール を参照してください。](#)

- ▶ License Manager をインストールしたユーザーとしてログインします。
- ▶ コマンドプロンプトを起動して、ライセンス マネージャのインストール ディレクトリに移動します。これは、ライセンス マネージャのインストール先ディレクトリで、IBM® SPSS® Amos™ のインストール先ディレクトリではありません。Windows のデフォルトの場所を受け入れた場合は、C:\Program Files\Common Files\SafeNet Sentinel\Sentinel RMS License Manager フォルダを確認してください。
- ▶ **Windows のみ**: winnt サブディレクトリに移動します。
- ▶ 通常は認証コードを使用します。コマンドプロンプトで次のように入力します。これは、最も簡単な例です。コマンドプロンプトの使用の詳細は、この後の説明を参照してください。

licenseactivator <auth-code>

<auth-code> は認証コードです。

ライセンスが有効になったことを示すメッセージが表示されます。このメッセージが表示されない場合は、エラー コードを確認し、ライセンスを手動でインストールしてください。[詳細は、p. 7 ライセンスの手動インストール を参照してください。](#)

licenseactivator を使用すると、製品ライセンスが有効になり、ディレクトリにログ ファイルが書き込まれます。ログ ファイル名は、licenseactivator_<month>_<day>_<year>.log です。エラーが発生した場合は、ログ ファイルで詳細を確認できます。この情報は、SPSS Inc. に問い合わせをする際にも役立ちます。

認証コードを使った licenseactivator の使用方法。

licenseactivator は、通常、購入した製品に付属している 1 つ以上の認証コードとともに使用します。すべてのテキストを 1 行に入力します。

```
licenseactivator authcode1[:authcode2:...:authcodeN] [PROXYHOST=proxy-hostname]  
[PROXYPORT=proxy-port-number] [PROXYUSER=proxy-userid] [PROXYPASS=proxy-password]
```

- 認証コードが複数ある場合はコロン (:) で区切ります。
- プロキシ設定は任意ですが、コンピュータがプロキシを設定している場合は設定が必要な場合があります。OS によって、必要なプロキシ設定が異なります。

Windows: プロキシ設定が機能するのは、コントロールパネルの [インターネットオプション] にある [ローカルエリアネットワーク (LAN) の設定] で、特定のプロキシサーバーのアドレスおよびポートが指定されている場合に限りです。コマンドラインにプロキシホストおよびポートを入力しないでください。ただし、PROXYUSER および PROXYPASS に値を入力する必要があります。

その他のオペレーティング システム: その他のオペレーティング システムの場合、特定のプロキシ設定に応じて、コマンド ラインのすべてのプロキシ設定の入力が必要な場合があります。

ライセンス コードを使った licenseactivator の使用方法。

あまり一般的ではありませんが、SPSS Inc. からすでに「ライセンス」を受けている場合もあります。

```
licenseactivator licensecode[:licensecode2:...:licensecodeN]
```

- ライセンス コードが複数ある場合はコロン (:) で区切ります。
- ライセンス コードを使用する場合、licenseactivator はインターネットに接続しないため、プロキシ情報を指定する必要はありません。

ライセンスの手動インストール

- ▶ License Manager をインストールしたユーザーとしてログインします。
- ▶ コマンド プロンプトを起動して、ライセンス マネージャのインストール ディレクトリ。これは、ライセンス マネージャのインストール先ディレクトリで、IBM® SPSS® Amos™ のインストール先ディレクトリではありません。Windows のデフォルトの場所を受け入れた場合は、C:\Program Files\Common Files\SafeNet Sentinel\Sentinel RMS License Manager フォルダを確認してください。
- ▶ **Windows のみ:** winnt サブディレクトリに移動します。
- ▶ サーバー コンピュータ用のロック コードを取得します。コマンド プロンプトで、「echoid」（その他のオペレーティング システム）と入力します。または「/echoid」（UNIX）と入力します。
- ▶ 当社にご連絡いただくか、spsscs@us.ibm.com にメールをお送りいただくことにより、ロック コードおよび認証コードを SPSS Inc. にお送りください。SPSS Inc. から、ライセンス コードまたはライセンス コードを含むファイルをお送りします。
- ▶ licenseactivator を使って、ライセンス コードを入力します。

トライアル ライセンスを有効にする

ライセンスをインストールしなかった場合は、IBM® SPSS® Amos™ の一時的なトライアル ライセンスをインストールできます。

- ▶ DVD が DVD ドライブにあることを確認してください。
- ▶ WlmAdmin アプリケーションを起動します。詳細は、[p.14 WlmAdmin アプリケーションの起動](#) を参照してください。
- ▶ WlmAdmin アプリケーションの左側のウィンドウ枠で、[Subnet Servers] の隣にある + 記号をクリックします。ライセンス マネージャ サーバーが一覧表示されていない場合は、[Edit] メニューから [Defined Server List] を選択してコンピュータを指定します。

- ▶ ライセンス マネージャを実行しているネットワーク コンピュータの名前を右クリックして、次の項目を選択します。
[Add Feature] > [From a File] > [To Server and its File]

注 :[To Server and its File] ではなく [To Server] を選択すると、トライアル ライセンス情報はメモリーに保存されます。ネットワーク コンピュータを再起動すると、この情報は消失します。
- ▶ [Open] ダイアログ ボックスで
「D:¥Windows¥Administration¥Licensing¥NetworkLicenseManager¥lservrc.temp」と入力します。ここでの D はインストール ディスク ドライブを示します。ディスク ドライブに D 以外のドライブを使用している場合は、適切なドライブ文字を入力してください。
- ▶ ライセンスが表示されたら、[OK] をクリックします。ライセンスの詳細を表示する方法は、「[ライセンスに関する詳細の表示](#)」（p. 15）を参照してください。

ライセンスの追加

後でライセンスを追加できます。ライセンスを追加するプロセスは、元のライセンスをインストールするプロセスと同じです。

ライセンスの表示

WlmAdmin アプリケーションでネットワーク ライセンス（ユーザー数を含む）を表示できます。WlmAdmin アプリケーションおよびライセンスの表示の詳細は、「[ネットワーク ライセンスの管理](#)」（p. 13）を参照してください。

ライセンス マネージャのテスト

ライセンス マネージャが適切に稼動していることを確認するために、ライセンス マネージャをテストする必要があります。

- ▶ 別のコンピュータにライセンス マネージャ ツールをインストールしていない場合、テストしたいライセンス マネージャが稼動して「いない」Windows コンピュータにライセンス マネージャ ツールをインストールしてください。詳細は、[p. 4 ライセンス マネージャ ツールのインストール](#) を参照してください。
- ▶ WlmAdmin アプリケーションを起動します。詳細は、[p. 14 WlmAdmin アプリケーションの起動](#) を参照してください。
- ▶ テストするリモート ライセンス マネージャ サーバーを追加します。詳細は、[p. 14 サーバーの追加](#) を参照してください。
- ▶ リモート サーバーのライセンスを表示します。詳細は、[p. 15 ライセンスに関する詳細の表示](#) を参照してください。

ライセンスを表示できる場合、ライセンス マネージャはローカル デスクトップ コンピュータと接続する準備ができています。ローカル デスクトップ コンピュータに製品をインストールできます。ライセンスが表示されない場合、前の手順を見直して、ライセンス マネージャが正しくインストールされていることを確認してください。

ローカル デスクトップ コンピュータへの製品のインストール

注：VPN を経由したネットワーク ライセンス マネージャへの接続は正式サポートしていません。

エンド ユーザーのコンピュータ（ローカル）に製品を完全にインストールするには、2 つの方法があります。各コンピュータに手動でインストールするか、Systems Management Server (SMS) のようなアプリケーションを使用して Windows が稼動しているコンピュータにインストールをプッシュできます。

ローカルのデスクトップに手動でインストールするには

- ▶ **インストール メディアを利用可能にする。**DVD のコピーを必要な部数作成するか、共有ネットワーク ドライブに置きます。
- ▶ **インストール手順書をコピーし、ライセンスに関する情報を準備する。**製品のインストール手順書のコピーを必要な部数作成します。インストール手順書は、DVD の /Documentation/<language>/InstallationDocuments ディレクトリにある次のファイルです。Network License Installation Instructions.pdf。簡易版のインストール手順書を配布することもできます。簡易版の手順書は、Network License Installation Instructions (Abbreviated).pdf にあります。ソフトウェアをダウンロードしている場合、すべての手順書をアセット マネジメント ポータルまたは <http://www.ibm.com/software/getspss> で入手することもできます。インストール終了後、エンド ユーザーは Network License Manager を実行しているネットワーク コンピュータの IP アドレスまたは名前を入力する必要があります。指示書をコピーする前に、指示書の初めにある空欄にこの情報を記入しておきます。
- ▶ **インストールに必要なものをエンド ユーザーに配布する。**インストール DVD（またはダウンロード済みファイルまたはネットワーク上での CD-ROM の場所）、インストール手順書、およびライセンス情報を、各コンピュータに手動でインストールできるエンド ユーザーに必要なに応じて配布します。

Windows が稼動しているローカルのデスクトップにプッシュするには

IBM® SPSS® Amos™ のインストールは Microsoft Windows インストーラ (MSI) と互換性があるため、エンド ユーザーのコンピュータにインストールをプッシュできます。

Windows が稼動しているコンピュータへのインストールのプッシュ

インストールのプッシュは、ユーザーの介入なしにソフトウェアをあらゆる人数のエンド ユーザーに配布する手法です。IBM® SPSS® Amos™ の完全インストールをエンド ユーザーの Windows が稼動するデスクトップ コンピュータにプッシュできま

す。インストールのプッシュに使用するテクノロジーでは、MSI エンジン 3.0 以上がサポートされている必要があります。

以前のバージョンのアンインストール

以前のバージョンの IBM® SPSS® Amos™ のインストール先と同じディレクトリにプッシュする場合は、古いバージョンをアンインストールする必要があります。インストールをプッシュするのと同様にアンインストールをプッシュできます。 [詳細は、p. 13 アンインストールのプッシュを参照してください。](#)

プッシュ インストールのプロパティ

プッシュ インストールに使用できるプロパティには、次のようなものがあります。すべてのプロパティは大文字小文字を区別します。値に空白文字が含まれている場合は、その値を引用符で囲む必要があります。

テーブル 1-1
プッシュ インストールのプロパティ

プロパティ	説明	有効値
INSTALLDIR	IBM® SPSS® Amos™ のインストール先となるエンド ユーザーのデスクトップ コンピュータ上のディレクトリ。このプロパティは省略可能です。指定がない場合、デフォルト値は C:\Program Files\IBM\SPSS\AMOS\19 になります。	C:\Amos などの有効なパス。
LICENSETYPE	ライセンスの種類。この値では大文字と小文字が区別されます。	Network
LSHOST	Network license manager を実行しているネットワーク コンピュータの IP アドレスまたは名前。	1 つ以上の有効な IP アドレスまたはネットワーク コンピュータ名。複数のアドレスまたは名前は、コロンで区切ります (例: server1:server2:server3)。
DISABLE_COMMUTE	エンドユーザーのデスクトップ コンピュータでのコミュニタ ライセンス機能を無効にします。このプロパティが指定された場合、コミュニタ ライセンスのショートカットはデスクトップ コンピュータにインストールされません。コミュニタ ライセンスの詳細は、「 コミュニタ ライセンスの設定 」(p. 18)を参照してください。	1 (コミュニタ ライセンスを無効にする)。

プロパティ	説明	有効値
SPSS_COMMUTE_MAX_LIFE	エンドユーザーがコンピュータライセンスをチェックアウトできる最大日数。詳細は、 p. 18 コンピュータライセンスの設定を参照してください 。	1 から 30 までの数字。
COMPANYNAME	会社の名前。	任意の文字列。

MSI ファイル

Amos 19.0.msi ファイルは Windows¥Amos ディレクトリにあります (DVD)。ソフトウェアをダウンロードした場合、MSI ファイルを使用するには、インストーラ ファイルのコンテンツを抽出する必要があります。詳細は、[p. 11 ダウンロードしたインストーラ ファイルのコンテンツの抽出](#) を参照してください。

ダウンロードしたインストーラ ファイルのコンテンツの抽出

インストール DVD を受け取っておらず、IBM® SPSS® Amos™ をダウンロードする場合、単一のインストーラ ファイルをダウンロードします。このファイルを直接プッシュできません。まず、ファイルのコンテンツを抽出し、プッシュ インストールにこれらのコンテンツを使用する必要があります。

- ▶ コマンド プロンプトを開きます。
- ▶ ファイルをダウンロードしたディレクトリに移動します。
- ▶ /b スイッチでダウンロード ファイルを実行します。スイッチの後、ファイルのコンテンツを抽出するディレクトリを指定します。スイッチおよびディレクトリ名の間にはスペースはありません。ディレクトリ名にスペースが含まれている場合、引用符で囲む必要があります。次に例を示します (実際の実行名は例とは異なります)。

```
ProductInstaller.exe /b"C:\temp\extracted files\IBM SPSS Amos"
```

- ▶ インストールの最初のパネルが表示された場合、インストールをキャンセルします。

インストールのプッシュに必要なファイルは、/b スイッチで指定したディレクトリにあります。

コマンド ラインの例

製品のインストールのプッシュに使用できるコマンド ラインの例を次に示します。すべてのテキストを 1 行に入力します。

```
MsiExec.exe /i "Amos 19.0.msi" /qn /L*v logfile.txt  
INSTALLDIR="C:\Amos" LICENSETYPE="Network" LSHOST="mylicserver"
```

SMS を使用したインストールのプッシュ

Systems Management Servers (SMS) を使用して IBM® SPSS® Amos™ をプッシュする際の基本手順は次のとおりです。

- ▶ DVD の Windows¥Amos ディレクトリの該当するディレクトリをネットワーク コンピュータ上のディレクトリにコピーします。ソフトウェアをダウンロードした場合、SMS でプッシュできません。他のオプションを試してください。 [詳細は、 p. 12 グループ ポリシーまたは関連するテクノロジーを使用したインストールのプッシュを参照してください。](#)
- ▶ コピー先のディレクトリにある Amos 19.0.sms ファイルを編集します。テキスト エディタを使用して、CommandLine の値を適切なプロパティを追加することで編集します。利用可能なプロパティのリストは、「プッシュ インストールのプロパティ」 (p. 10) を参照してください。コマンドラインで適切な MSI ファイルを指定してください。
- ▶ Amos 19.0.sms ファイルからパッケージを作成し、そのパッケージをエンド ユーザーのデスクトップ コンピュータに配布します。

グループ ポリシーまたは関連するテクノロジーを使用したインストールのプッシュ

グループ ポリシーまたは関連するテクノロジーを使用して IBM® SPSS® Amos™ をプッシュする際の基本手順は次のとおりです。

- ▶ DVD の Windows¥Amos ディレクトリの該当するディレクトリをネットワーク コンピュータ上のディレクトリにコピーします。ソフトウェアをダウンロードした場合、インストーラ ファイルのコンテンツを抽出する必要があります。 [詳細は、 p. 11 ダウンロードしたインストーラ ファイルのコンテンツの抽出を参照してください。](#)
- ▶ ORCA などのアプリケーションを使用して、コピーされたフォルダの下の適切な Amos 19.0.msi ファイルのプロパティ テーブルを編集します。ORCA は、Windows 2003 Server SDK に含まれています (<http://www.microsoft.com/downloads> へ移動し、「SDK」で検索してください)。プロパティ テーブルに追加できるプロパティのリストは、「プッシュ インストールのプロパティ」 (p. 10) を参照してください。適切な MSI ファイルを使用してください。
- ▶ 編集した Amos 19.0.msi ファイルを使用してパッケージを作成し、そのパッケージをエンド ユーザーのデスクトップ コンピュータに配布します。

英語以外のシステムにインストールをプッシュする

追加の指定をせずに英語以外のシステムにプッシュできます。ただし、インストーラの言語 (インタラクティブ インストールをプッシュする場合) が英語で表示される場合、インターフェイスは英語で表示され、またヘルプも英語で表示されます。ユーザーはインストール後にユーザー インターフェイスの言語を変更できますが、ローカライズされたヘルプは使用できません。

DVD からプッシュしている場合、TRANSFORMS プロパティを使用して、DVD で使用できる MST ファイルのいずれかを指定できます。MST ファイルを使用して、インストーラ、ユーザー インターフェイス、およびヘルプを指定の言語で表示できます。IBM® SPSS® Amos™ をダウンロードした場合、MST ファイルを使用できません。ユーザーは、ローカライズされたヘルプの言語パックを手動でインストールし、製品のユーザー インターフェイス言語を手動で変更する必要があります。

TRANSFORMS プロパティは、MsiExec.exe のパラメータです。次の例では、TRANSFORMS プロパティを使用して、フランス語のインストールをプッシュします。インストーラがフランス語で、またユーザー インターフェイスもフランス語で表示され、フランス語のヘルプがインストールされます。(ヘルプ言語を HELPCHOICE プロパティで上書きすることもできます。[詳細は、p. 10 プッシュ インストールのプロパティを参照してください。](#)) すべてのテキストを 1 行に入力します。

```
MsiExec.exe /i "Amos 19.0.msi" /qn /L*v logfile.txt
INSTALLDIR="C:\Amos" LICENSETYPE="Network" LSHOST="mylicserver" TRANSFORMS=1036.mst
```

次の言語の MST は DVD の Windows¥Amos ディレクトリにあります。

テーブル 1-2
言語の MST ファイル

言語	MST ファイル
英語	1033.mst
日本語	1041.mst

アンインストールのプッシュ

注：アンインストール コマンドをプッシュすると、エンドユーザーがカスタマイズした設定は失われます。特定のユーザーがカスタマイズした設定を必要とする場合は、それらのユーザーを配布から除外して、製品を手動でインストールするよう指示できます。

新しいバージョンの IBM® SPSS® Amos™ のインストールをプッシュする場合、アンインストールを行う必要がある場合があります。このアンインストールは、次のコマンドをプッシュすることで自動的に行えます。すべてのテキストを 1 行に入力します。

```
MsiExec.exe /X{B132EFD2-BF03-48AA-8EC8-404E4C5199C5} /qn /L*v logfile.txt
ALLUSERS=1 REMOVE="ALL"
```

このコマンドは、IBM SPSS Amos 19 をアンインストールします。次の表には、本リリースおよび以前のリリースのアンインストール ID を示します。

テーブル 1-3
IBM SPSS Amos のアンインストール ID

バージョン	アンインストール ID
19.*	{B132EFD2-BF03-48AA-8EC8-404E4C5199C5}
18.*	{65D9DA69-4C22-46CA-B762-A338CAC94599}
17.*	{9DB2E18E-2A1F-4D65-A258-9CB446903C3E}
16.*	{4DA782CB-C9A0-462F-9D18-17D301BC507C}

ネットワークライセンスの管理

ライセンス マネージャでネットワークライセンスを管理します。ライセンス マネージャ自体を管理し、保持しているネットワークライセンスに関する情報を表示するために、ライセンス マネージャ ツールの主要なユーザー インターフェイスである WlmAdmin アプリケーションを使用できます。ライセンス マネージャ ツー

ルは、Windows のネットワーク ライセンス マネージャとともに自動的にインストールされます。詳細は、[p. 4 ライセンス マネージャ ツールのインストールを参照してください](#)。

注：管理情報についてさらに必要な場合、DVD の <operating system>¥Administration¥Licensing¥NetworkLicenseManager¥SentinelLM Help の Sentinel マニュアルを参照してください。また、このマニュアルはライセンス マネージャと共に Windows にもインストールされます。

WlmAdmin アプリケーションの起動

ライセンス マネージャがインストールされている Windows コンピュータから起動する

- ▶ Windows の [スタート] メニューから次の項目を選択します。
[すべてのプログラム] > [Sentinel RMS License Manager] > [Sentinel RMS Server Administration]

ライセンス マネージャ ツールがインストールされている Windows コンピュータから起動する

- ▶ Windows の [スタート] メニューから次の項目を選択します。
[すべてのプログラム] > [Sentinel RMS Tools] > [Sentinel RMS License Server Administration]

サーバーの追加

ネットワーク ライセンス マネージャを管理する前に、WlmAdmin アプリケーションにサーバーを追加する必要があります。サーバーを追加するには、2 つの方法があります。

手動でサーバーを追加するには

- ▶ WlmAdmin アプリケーション メニューから、次の項目を選択します。
編集 > Defined Server List
- ▶ [Defined Server List] ダイアログで、ライセンス マネージャを実行しているサーバーの名前または IP アドレスを入力します。
- ▶ [追加] をクリックします。
- ▶ [OK] をクリックします。

サーバーが、WlmAdmin アプリケーションの左側のウィンドウ枠に [Defined Servers] リストが表示されます。

サブネットのサーバーのリストを表示するには

- ▶ WlmAdmin アプリケーションの左側のウィンドウ枠で、[Subnet Servers] の隣にある + 記号をクリックします。

サブネットのネットワーク ライセンス マネージャ サーバーのリストが表示されません。この方法で特定のサーバーが見つからない場合、上記のようにサーバーを手動で追加する必要があります。

ログ ファイルの場所の設定

エンド ユーザーのライセンスの確認がうまくいかない場合、ログ ファイルに役立つ情報が含まれていることがあります。ログ ファイルの場所を変更したり、ログ ファイルの現在の場所を見つけたりするには、次の手順を実行します。

- ▶ WlmAdmin アプリケーションの左側のウィンドウ枠で、ネットワーク ライセンス マネージャ サーバーを右クリックし、ショートカット メニューから [Change Log Filename] を選択します。ダイアログ ボックスが表示されます。
- ▶ 必要に応じてファイル名を変更します。[New File Name] ボックスに、対象のネットワーク コンピュータのライセンス マネージャのログ ファイルへの完全パスを入力します。
- ▶ 変更を加えた場合は、[Change] をクリックします。それ以外の場合は、[Cancel] をクリックします。

ライセンスに関する詳細の表示

手動で、またはライセンス認証ウィザードを使用して追加したライセンスに関する詳細を表示できます。

- ▶ WlmAdmin アプリケーションの左側のウィンドウ枠で、ライセンス マネージャ サーバーの隣の + 記号をクリックし、ライセンスを表示します。
- ▶ ライセンスの名前をクリックします。右側のウィンドウ枠に、ライセンスに関する詳細が表示されます。ライセンスを識別するためにコードが使用されています。コードの最初の部分は機能を示します。2 番目の部分はバージョンを示します。

機能コードに関連付けられた名前を確認するには

- ▶ コマンドプロンプトを使用して、ライセンス マネージャがインストールされているディレクトリに移動します。
- ▶ 「Imshowlic <server>」(Windows)または「./Imshowlic <server> (その他のオペレーティングシステム)」と入力します。<server> は、ライセンス マネージャを実行しているサーバーの名前または IP アドレスです。

サーバー上で使用可能なすべての機能の一覧が、製品別およびバージョン別に表示されます。

リダンダント ライセンス サーバーの設定

同じユーザー群をサポートする複数のリダンダント（冗長）ライセンス サーバーを設定できます。リダンダント サーバーにより、サービスがクラッシュしたときに発生する中断を防ぐことができます。1 台目のサーバーがクラッシュしても、別のリダンダント サーバーがライセンスの管理を引き継ぎます。

リダンダント（冗長）機能を有効にするには、特殊な認証コードが必要です。ソフトウェアに付属する認証コードでは、冗長性が有効になりません。ソフトウェアに付属するコードをインストールすることにより、リダンダント（冗長）機能を使用できなくなるため、注意してください。冗長性を有効にする場合は、下記の準備手順に従ってください。次に、カスタマ サービスに、電子メール (spsscs@us.ibm.com) または電話 (03-5466-5620) で 9:00 から 17:00 の間に連絡してください。北米以外のお客様は、お近くのオフィスにお問い合わせください。

3 台以上で奇数台のライセンス サーバーがあり、かつその過半数が同時に動作している必要があります。たとえば、リダンダント ライセンス サーバーが 3 台ある場合は、うち 2 台が動作中である必要があります。

各リダンダント ライセンス サーバーを準備するには

- ▶ ライセンス マネージャをインストールします。詳細は、[p. 2 Network License Manager のインストール](#) を参照してください。
- ▶ コマンド プロンプトを使用して、ライセンス マネージャをインストールしたディレクトリに移動します。
- ▶ 各サーバー コンピュータのロック コードを取得します。コマンド プロンプトで、「`echoid`」(Windows) または「`./echoid`」(他のオペレーティング システム) と入力します。
- ▶ ロック コードを控えておきます。カスタマ サポートまたはお近くのオフィスへのご連絡の際にこちらが必要になります。
- ▶ リダンダント ライセンス サーバーごとにこの手順を繰り返します。

リダンダント ライセンス サーバー プールを設定するには

- ▶ ライセンス マネージャがいずれかのリダンダント ライセンス サーバー上で実行されている場合は、各コンピュータの license manager 停止します。
- ▶ WlmAdmin アプリケーション メニューから、次の項目を選択します。
編集 > Redundant License File
WrlfTool アプリケーションが開きます。
- ▶ WrlfTool アプリケーション メニューから、次の項目を選択します。
ファイル(F) > 新規作成(N)
- ▶ リダンダント ライセンス サーバーごとに [Add] をクリックして、各サーバーのホスト名と IP アドレスを指定します。

- ▶ リダンダント ライセンス サーバーが使用される順序になるようにサーバーの順序を変更します。リストの最初がプライマリ サーバーです。
- ▶ [Add License] をクリックして、カスタム サービスまたはお近くのオフィスから受け取ったライセンスを追加します。複数のライセンスを受け取った場合には、必ずすべてを追加してください。
- ▶ [OK] をクリックします。
- ▶ 入力し終わったら、[Done] をクリックします。

リダンダント ライセンス ファイルを保存するには

- ▶ WrlfTool アプリケーション メニューから、次の項目を選択します。
ファイル(F) > 名前を付けて保存
- ▶ リダンダント ライセンス ライセンス ファイル (lservrlf) をアクセスしやすい場所に保存します。次の手順でファイルをコピーする必要があります。

リダンダント ライセンス サーバーを設定するには

- ▶ リダンダント ライセンス ファイル (lservrlf) を Windows をライセンス マネージャのインストール ディレクトリの winnt サブフォルダにコピーします。デフォルトの場所を受け入れた場合は、C:\Program Files\Common Files\SafeNet Sentinel\Sentinel RMS License Manager フォルダを確認してください。3 台以上のリダンダント ライセンス サーバーが必要です。
- ▶ 各リダンダント ライセンス サーバーでライセンス マネージャを開始します。

エンド ユーザーのコンピュータを設定するには

エンドユーザーが製品をインストールするときは、コロンで区切られたサーバー名または IP アドレス (例: server1:server2:server3) ですべてのリダンダント サーバーを指定します。これにより、セットアップ プログラムはエンド ユーザーのコンピュータに必要な設定情報を追加します。すでに製品がデスクトップ コンピュータにインストールされている場合は、設定情報を追加するために次の手順を手動で実行してください。また、すべてのサーバーを定義する新しいインストールの後でアンインストールをプッシュすることもできます。プッシュ インストールの詳細は、「[Windows が稼動しているコンピュータへのインストールのプッシュ](#)」(p. 9) を参照してください。

- ▶ テキスト エディタを使用して、デスクトップ コンピュータの製品インストール ディレクトリにある spssprod. inf を開きます。
- ▶ DAEMONHOST の行をコメントアウトします。次に例を示します。

```
#DAEMONHOST=server1
```
- ▶ spssprod. inf を保存します。
- ▶ LSHOST 環境変数を作成します。コロンで区切られたサーバー名または IP アドレス (例: server1:server2:server3) ですべてのリダンダント サーバーが含まれるようにこの変数を設定します。

コンピュータライセンスの設定

コンピュータライセンスを使用すると、エンドユーザーはライセンスマネージャからライセンスをチェックアウトし、ネットワークに接続していないときでもライセンスを使用できるようになります。Windows の場合、コンピュータライセンスはデフォルトで有効化されて「いません」。その他のオペレーティングシステムではデフォルトで有効化されています。コンピュータライセンスを実際にチェックアウトするための手順は、エンドユーザーのインストール手順に記載されています。

社外からライセンスマネージャサーバー経由でのアクセス用に有効にするライセンス数の割合を、制限することができます。すべてのライセンス（トークン）が外勤者に使用されてしまわないように、コンピュータライセンスを制限することをお勧めします。指定された割合のライセンスがコンピュータで使用された後、コンピュータライセンスの期限を過ぎるまで、またはチェックバックされない限り、ライセンスをこれ以上使用できません。エンドユーザーがライセンスをチェックアウトできる最大期間を設定することもできます。デフォルトの最大期間は、日間です。

使用可能なコンピュータライセンス数の割合を設定するには

- ▶ ライセンスマネージャサーバー上に LSERVOPTS 環境変数を作成します。この変数は Windows ではライセンスマネージャをインストールする過程で作成されます。そのため、Windows 以外のオペレーティングシステムでのみこの作業を行う必要があります。
- ▶ LSERVOPTS 環境変数の値を編集して、「-com <percentage>」を含めます。<percentage> は社外で使用可能なライセンス数を示す 0~100 の数字です。0 を指定すると、コンピュータライセンスが無効になります。0 に設定されています。
- ▶ ライセンスマネージャを実行しているコンピュータを再起動します。

コンピュータライセンスの最大期間を設定するには

コンピュータライセンスをチェックアウトする時間の最大日数は、デスクトップコンピュータの spssprod.inf ファイルの CommuterMaxLife 設定で指定されます。このファイルは、デスクトップコンピュータの製品インストールディレクトリにあります。spssprod.inf を開き、CommuterMaxLife を検索します。このオプションの値を、エンドユーザーがコンピュータライセンスをチェックアウトできる最大日数に設定してください。これは 1 からの数値です。この値は、インストールをプッシュするときにも設定できます。詳細は、[p. 9 Windows が稼動しているコンピュータへのインストールのプッシュ](#) を参照してください。

注：この機能は時間単位ではなく日単位で作用します。たとえば、CommuterMaxLife オプションを 1 日に設定し、その後で午前 9 時にライセンスをチェックすると、そのライセンスは翌日の午前 0 時までチェックインされません。したがって、CommuterMaxLife が 1 日に設定されていても、ライセンスは実際には 39 時間保持されます。

コマンドラインからチェックアウトしたライセンスの一覧を表示するには

どのユーザーがライセンスをチェックアウトしたかを確認することができます。

- ▶ コマンドプロンプトを使用して、ライセンス マネージャがインストールされているディレクトリに移動します。
- ▶ 「lsmon <server>」(Windows)または「./lsmon <server> (その他のオペレーティング システム)」と入力します。<server> は、ライセンス マネージャを実行しているサーバーの名前または IP アドレスです。ローカル ホスト サーバーに対してのみチェックアウトしたライセンスを表示する場合は、ライセンス サーバー名を省略できます。

WlmAdmin アプリケーションからチェックアウトしたライセンスの一覧を表示するには

次のようにして、WlmAdmin アプリケーションでチェックアウトしたライセンスを表示することもできます。

- ▶ WlmAdmin アプリケーションの左側のウィンドウ枠で、ライセンス マネージャ サーバーの隣にある + 記号をクリックします。
- ▶ [Clients] の隣の [+] をクリックします。ネットワーク ライセンスを使用するクライアントが表示されます。クライアントが表示されない場合、ネットワーク ライセンスを使用するユーザーはいません。
- ▶ 特定のクライアントを選択して、クライアントがライセンスをチェックアウトしたかどうかを表示します。選択した後、右側のウィンドウ枠の [Detailed Information] エリアを確認します。

ライセンス リザーベーション (予約) の設定

特定のユーザーまたはユーザー グループに予約するライセンス数を指定するファイルとして、リザーベーション ファイルを作成できます。各ユーザーは、ネットワーク ID またはコンピュータ名 (IP アドレスではない) で識別されます。たとえば、パワーユーザーのグループ用のライセンスを予約するためのリザーベーション ファイルなどを設定できます。これらのユーザーにはライセンスは常に使用可能です。また、予約を利用して、特定のユーザーをライセンスにアクセスできないようにも設定できます。

新しいリザーベーション ファイルを作成するには

- ▶ WlmAdmin アプリケーション メニューから、次の項目を選択します。
編集 > [Reservation File]
Wlsgrmgr アプリケーションが開きます。
- ▶ Wlsgrmgr アプリケーション メニューから、次の項目を選択します。
ファイル(F) > 新規作成(N)

リザーベーション ファイルにライセンスとユーザーを追加するには

- ▶ Wlsgrmgr アプリケーション メニューから、次の項目を選択します。
特徴 > 追加
- ▶ ウィザードの最初の 画面で [Next] をクリックします。

- ▶ 予約対象のライセンスに関連付けられた機能コードを指定します。機能コードをライセンスに関連付ける方法に関する詳細は、「[ライセンスに関する詳細の表示](#)」(p. 15)を参照してください。また、WlmAdmin アプリケーションに表示されるバージョン (160 など) を入力して、対象バージョンを規定することもできます。バージョンは必須です。キャパシティ ライセンスはサポートされていないため、[Capacity] コントロールは無視してください。
- ▶ [次へ] をクリックします。
- ▶ ユーザー グループの名前を指定します。名前は、任意に設定できますが、内容を表すようなものにしてください(「Sales」など)。
- ▶ グループに予約するライセンス数を指定します。グループ メンバーは、依然としてすべてのライセンスにアクセスできますが、グループ外のユーザーには指定したライセンス数が使用できなくなります。たとえば、10 のライセンスがあつて 5 つを予約すると、グループのメンバーには 10 のライセンスが使用できますが、他のユーザーには 5 つしか使用できません。
- ▶ [Members] ウィンドウで、[Add] をクリックして、グループに関連付けるユーザー名またはコンピュータ名を指定します (IP アドレスは使用しない)。ユーザーまたはコンピュータがグループに含まれると、そのユーザーやコンピュータはリザベーション ライセンスを使用できるようになります。ユーザーまたはコンピュータがグループから外されると、そのユーザーやコンピュータはリザベーション ライセンスにまったくアクセスできなくなります。ユーザーやコンピュータを必要なだけ指定してください。なお、各グループは互に排他的である必要があります。したがって、同じライセンスに関係する異なるグループには、互いに共通のユーザーやコンピュータを含めることはできません。
- ▶ すべてのユーザーがグループに追加されたら、[Finish] をクリックします。
- ▶ 必要に応じて、他のグループまたはライセンスを追加します。また、ライセンスまたはグループを右クリックし、[Properties] を選択して、ライセンスやグループの修正または削除が可能です。

リザベーション ファイルを保存するには

- ▶ リザベーション ファイルの定義を終了したら、メニューから次の項目を選択します。
ファイル(F) > 名前を付けて保存
- ▶ ファイルをアクセスしやすい場所に保存します。次の手順でファイルをコピーする必要があります。
- ▶ ライセンス サーバーが起動時に、lsreserv ファイルを自動的に検出できるようにするには、ファイルを Windows のライセンス マネージャのインストール ディレクトリの winnt サブフォルダにコピーします。デフォルトの場所を受け入れた場合は、C:\Program Files\Common Files\SafeNet Sentinel\RMS License Manager フォルダを確認してください。
- ▶ 同じ予約をすべてのリダンダント サーバーに適用する場合は、各サーバーにリザベーション ファイル (lsreserv) をコピーします。

- ▶ 終了したら、それぞれの license manager を再起動します。

license manager の開始および停止

License manager を起動する方法は、オペレーティング システムによって異なります。

Windows

Windows コンピュータの場合、ライセンス マネージャはシステム サービスです。デフォルトでは、サービスは自動的に開始されます。ただし、このサービスを手動で開始する必要がある場合は、次の手順を実行します。

- ▶ Windows のコントロール パネルで、[管理ツール] をダブルクリックします。
- ▶ [サービス] をダブルクリックします。
- ▶ [サービス] リストから「Sentinel RMS License Manager」を見つけます。
- ▶ そのサービスを右クリックし、[開始] または [停止] をクリックします。

その他のオペレーティング システム

他のオペレーティング システムでは、ライセンス マネージャはデーモン サービスです。次の手順を完了して、サービスを手動で開始します。また、ライセンス マネージャが自動的に開始されるように設定することもできます（手順は次のとおり）。

- ▶ コマンドプロンプトを使用して、ライセンス マネージャをインストールしたディレクトリを参照します。
- ▶ **起動。** root として、コマンドプロンプトで「./lserv &」と入力し、Enter キーを押します。
- ▶ **停止。** root として、コマンドプロンプトで「./lsrtdown <hostname>」と入力します。ここでの「<hostname>」は、License Manager が実行されているコンピュータのネットワーク名です。次に Enter キーを押します。

License manager を自動的に開始されるように設定する

Windows

- ▶ Windows のコントロール パネルで、[管理ツール] をダブルクリックします。
- ▶ [サービス] をダブルクリックします。
- ▶ [サービス] リストから「Sentinel RMS License Manager」を見つけます。
- ▶ そのサービスを右クリックし、[プロパティ] をクリックします。
- ▶ スタートアップの種類を [自動] に設定します。
- ▶ [OK] をクリックします。

その他のオペレーティング システム

- ▶ オペレーティング システムの起動ファイルのいずれかに「./lserv &」を追加します。

License manager のアンインストール

Windows

- ▶ Windows の [スタート] メニューから次の項目を選択します。
設定(N) > [コントロール パネル]
- ▶ [プログラムの追加と削除] をダブルクリックします。
- ▶ [Sentinel RMS License Manager] を選択し、[削除] をクリックします。
- ▶ ライセンス マネージャを削除するかどうかを尋ねるメッセージが表示された場合は、[はい] をクリックします。

その他のオペレーティング システム

- ▶ コマンドプロンプトを使用して、license manager をインストールしたディレクトリを参照します。
- ▶ ライセンス マネージャを停止するには、コマンドプロンプトで「./lsrvdown <hostname>」と入力します。<hostname> は、ライセンス マネージャが実行されているコンピュータのネットワーク名です。次に Enter キーを押します。
- ▶ License manager がインストールされているディレクトリを削除します。

デスクトップ コンピュータのトラブルシューティング

エンド ユーザーのデスクトップ コンピュータの license manager で問題が発生した場合は、次の手順を実行します。

- ▶ lswhere を実行して、デスクトップ コンピュータで license manager を実行しているネットワーク コンピュータを検出できることを確認します。 [詳細は、p. 23 lswhere の実行 を参照してください。](#)
- ▶ license manager サービスがネットワーク コンピュータで実行されていることを確認します。
- ▶ 適切な spssprod.inf ファイルを確認します。このファイルは、デスクトップ コンピュータの製品インストール ディレクトリにあります。spssprod.inf を開き、DAEMONHOST に、license manager を実行しているコンピュータの正しい名前または IP アドレスが設定されていることを確認してください。リダンダント サーバーを使用している場合、これは空にしてください。
- ▶ 複数のリダンダント サーバーを使用している場合は、LSHOST 環境変数でそれらのすべてを定義してください。それぞれの名前はコロン (:) で区切ります。たとえば、ライセンス マネージャを実行しているコンピュータが SERVER1、SERVER2、および SERVER3 の場合、LSHOST は SERVER1:SERVER2:SERVER3 と設定します。

lswhere の実行

lswhere は、エンド ユーザーのデスクトップ コンピュータから実行でき、network license manager を実行しているコンピュータを確認できます。

- ▶ コマンド プロンプトを使用して、現在のディレクトリを IBM® SPSS® Amos™ のインストール ディレクトリに変更します。
- ▶ 「lswhere」と入力します。

エンド ユーザーのコンピュータに環境変数を定義する

エンド ユーザーのコンピュータに環境変数を定義する手順を次に示します。

Windows 2000/Windows XP/Windows 2003 で環境変数を定義するには

- ▶ Windows のコントロール パネルで、[システム] をダブルクリックします。
- ▶ [詳細設定] タブをクリックします。
- ▶ [環境変数] をクリックします。
- ▶ [システム環境変数] 領域で、[新規] をクリックします。
- ▶ [変数名] ボックスに、「LSHOST」と入力します。
- ▶ [変数値] ボックスに、network license manager を実行しているコンピュータの名前または IP アドレス（「myserver」または「204.171.64.2」など）を入力します。
- ▶ [OK] をクリックします。

サービスとサポート

SPSS Inc. テクニカル サポートに連絡するには、<http://support.spss.com> にアクセスしてケースを送信してください。SPSS Inc. テクニカル サポートに登録していない場合は、登録が必要です。

SPSS Inc. では、SPSS Inc. 製品のトレーニング セミナーを定期的に行っています。オンサイトでのトレーニング受講も可能です。トレーニング セミナー、ソフトウェア、出版物の詳細は、(03) 5466-5513 にお問い合わせいただくか、Web サイト (<http://www.spss.com><http://www.spss.co.jp/training/training.html>) を参照してください。

障害のあるメディアの交換は、電子メール (spsscs@us.ibm.com) または電話 (03-5466-5620) で 9:00 から 17:00 の間に連絡してください。